

## 話し合い活動の手引き

### § 8 話し合いを行う ～意見を出し合う

一部の子が意見をバンバン言い、決まり切ったことが簡単に決まってしまうような話し合いは本物ではありません。やはり、**全員が参加できる活発な話し合い活動**を目指すべきだと思います。

そのために、どんなことに気をつけておけばいいか、まとめてみたいと思います。

まず、**意見を出し合うこと**についてです。話し合いは、提案に対する意見がないことには進めることができません。そこで、この段階では、提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自分の言葉で発表できるようにします。「出し合う」段階では、児童一人ひとりが話し合うことに対する考えを発表することを重視しますので、賛成意見や反対意見を述べるのではなく、様々な考えを発表することを大切にします。その考えを理解するために質問することはあります。

#### その1) 話し合うことが明確になる議題（オリジナル議題）をつくる

話し合いが活発になるかどうかは、議題によってほぼ決まると考えています。

そこでは何を話し合えばいいのかが明確になるようにしたいものです。そのために、議題を決める際の計画委員会での話し合いでしっかり指導したいものです。例えば、「2学期のお楽しみ会について話し合おう」よりも「3学期に生かせる2学期のまとめの会について話し合おう」の方が、「何を話し合えばいいのかが明確になってきます。このようなものを**「オリジナル議題」**とよんでいます。

「3学期に生かせる…」の部分には、「〇〇大会の経験を生かした…」「男女が仲良くなる…」「5年2組オリジナルの…」「みんなの気持ちを一つにできる…」などのような言葉を入れるといいかもしれませんね。

#### その2) 話し合いへの意識を高める

その話し合いを、子どもたちがわくわくして待っている状態がつかれるといいですね。そのために、子どもたちの中に話し合いへの意識を高めておくとういようです。

- ◇いつ話し合うのか、予告をしておく。
  - ◇その話し合いをすると学級がどのようによくなるのか（学級がよりよくなる予感）について話をしておく。
  - ◇事前に学級会ノートに意見を書かせておく。
  - ◇休み時間等に話し合いの内容を話題として取り上げる。
- ※2つ目に書いた「学級がよりよくなる予感」については、教師の出番です。

#### その3) 話し合う理由を明確にする

活発な話し合いにするためには、なぜその話し合いを行うことが必要なのかを明確にすることが大切です。そこで、「提案理由」を大事にします。

- ◇現状の問題点（今、こうなっている）
- ◇考えられる解決方法（こうすることで）
- ◇解決後のイメージ（こうしたい、こうなりたい）

この3つのことを提案理由の中に書くようにします。例を示します。

**(提案理由の例)**

「今、私たちの学級では、男女の仲があまりよくありません。このままだと、学級目標の『みんな仲良く』が守れません。そこで、せっかく同じクラスになったのだから、男女仲良く生活できたらいいと思い、ドッジボール大会を提案します。」

このように、提案理由をはっきりさせておくことによって、「比べ合う」段階で立ち止まってしまったときに、この提案理由に戻ることができるのです。